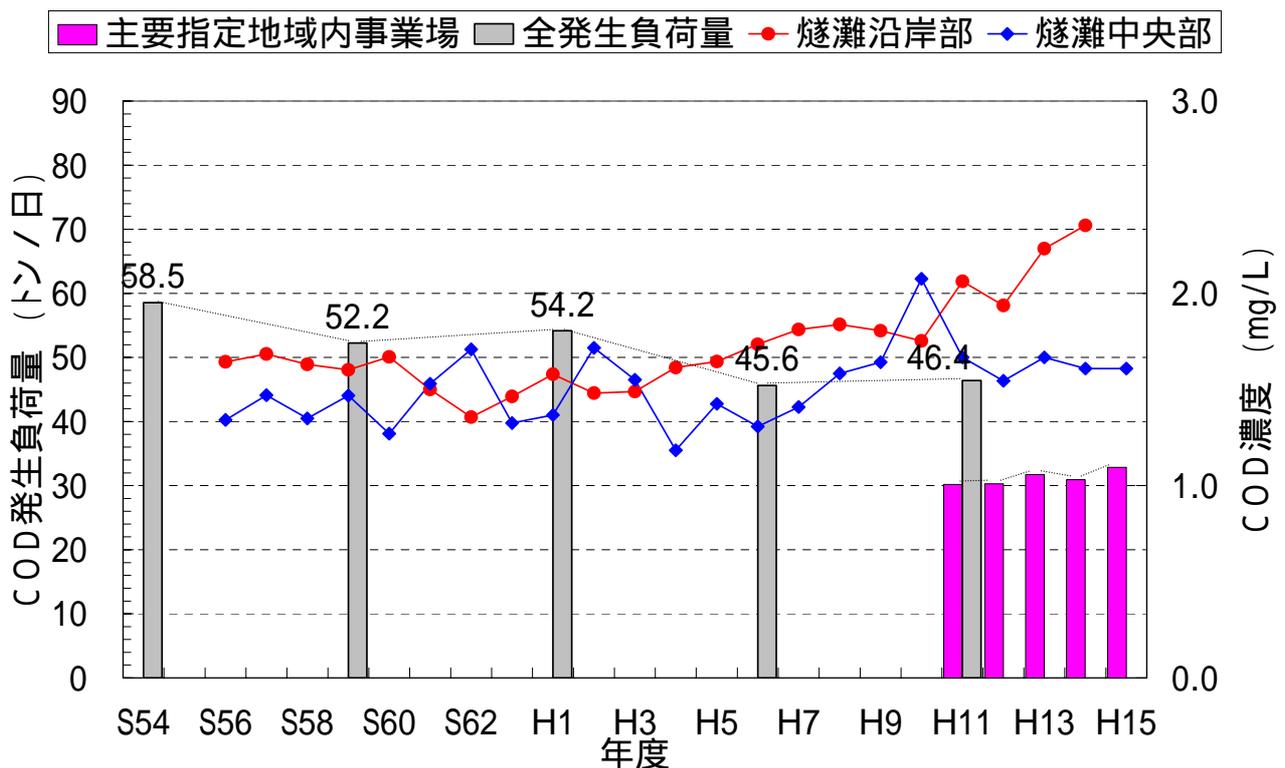


## 燧灘におけるCOD発生負荷量とCOD濃度の経年変化

近年、燧灘においてCODに係る環境基準値を超過する環境基準点の数が増えていることから、燧灘におけるCOD濃度及びCOD発生負荷量の推移を整理した(図-1)。

燧灘沿岸部及び中央部のCOD濃度は、それぞれ公共用水域水質測定及び広域総合水質調査による上層・年間平均値を示す(それぞれの水質調査地点を図-2及び図-3に示す)。燧灘中央部におけるCOD濃度が横ばいに推移する一方で、沿岸部のCOD濃度は近年上昇傾向を示している。

次に、燧灘における発生負荷量について見ると、昭和54年度から平成11年度までの間に、58.5ト/日から46.4ト/日まで削減されているものの、瀬戸内海全体の削減状況(1,012ト/日から672ト/日)と比較すると削減率は小さくなっている。また、平成11年度以降、燧灘における主要な指定地域内事業場から排出される汚濁負荷量はわずかながら増加している。



備考：主要指定地域内事業場とは、汚濁負荷量の多い指定地域内事業場の内、平成11年度から平成15年度まで継続的に汚濁負荷を排出した指定地域内事業場(25事業場)の発生負荷量合計

図-1 燧灘におけるCOD発生負荷量とCOD濃度の推移

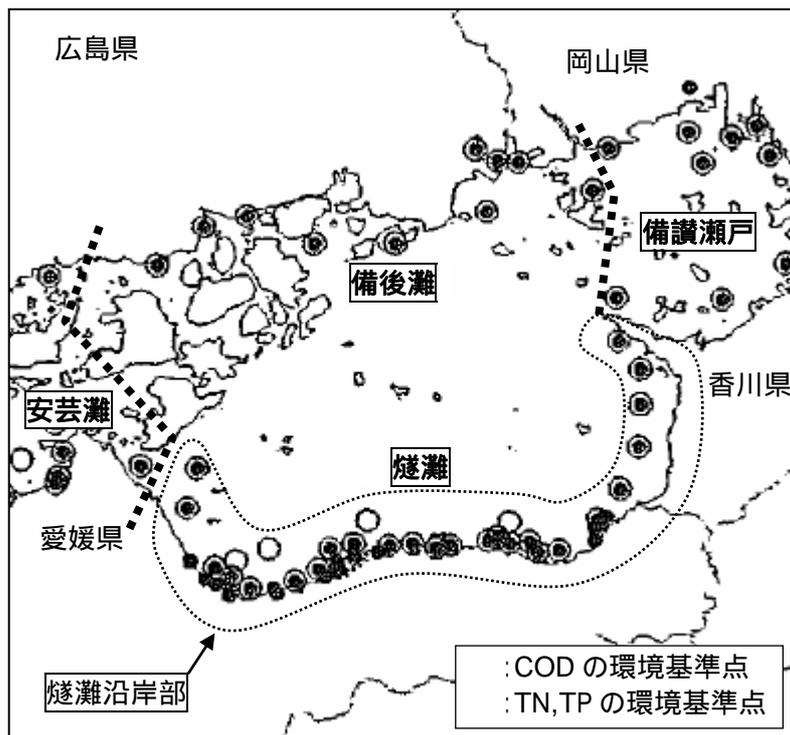
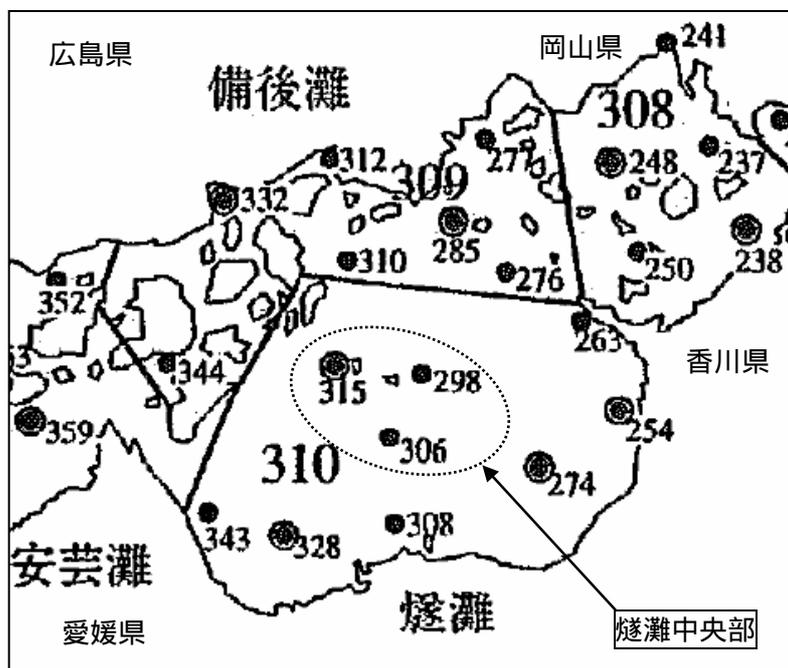


図 - 2 燧灘沿岸部におけるCOD濃度測定点（公共用水域水質測定）



備考）図中の数字は、測定地点番号

図 - 3 燧灘中央部におけるCOD濃度測定点（広域総合水質調査）